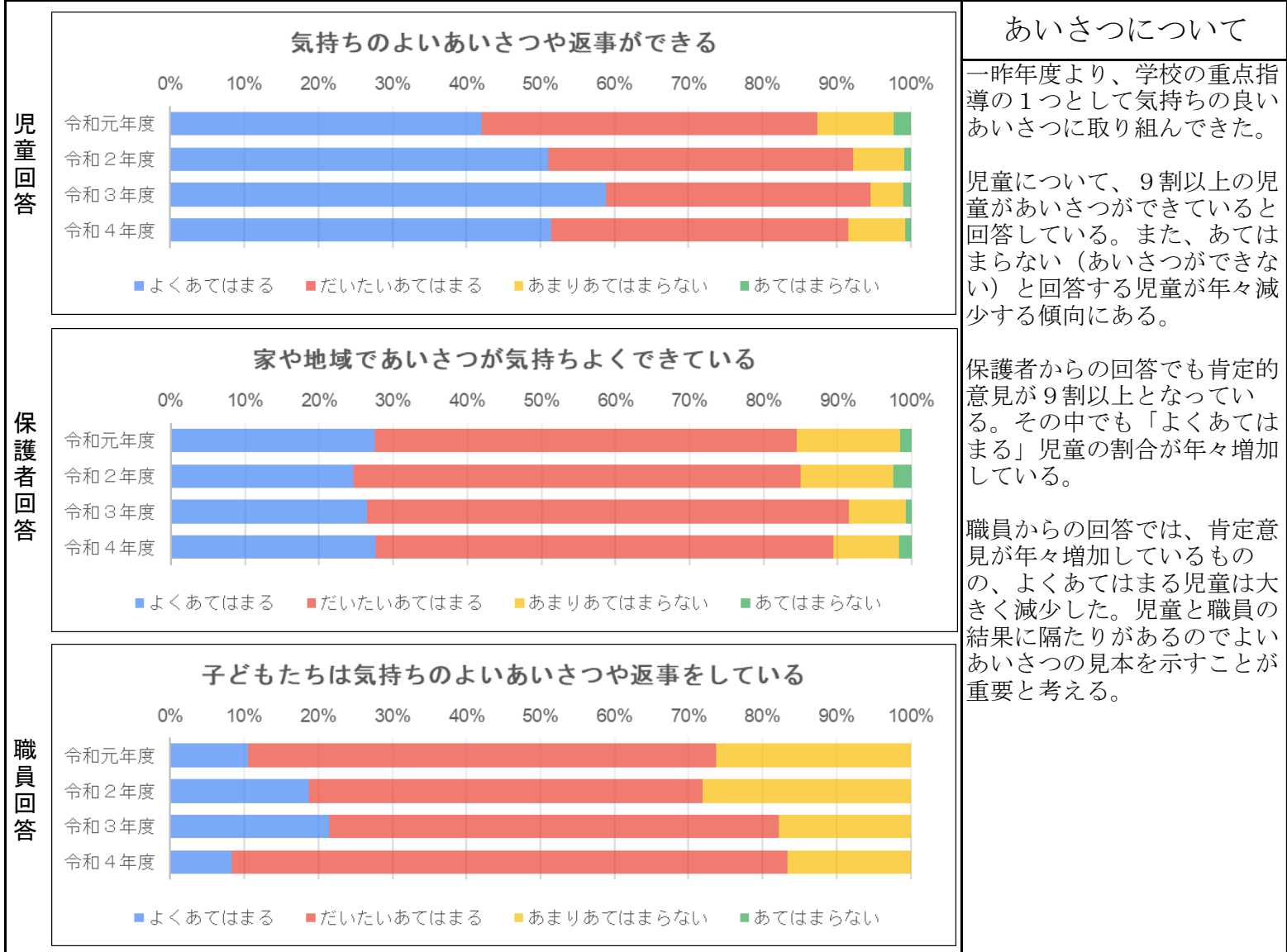


上記の「楽しく学校に通う。」点との関係性があるように見受けられる。学校の時間の中で最も多くを占める授業のあり方について、研修会により授業力の向上を来年度目指したいと思う。



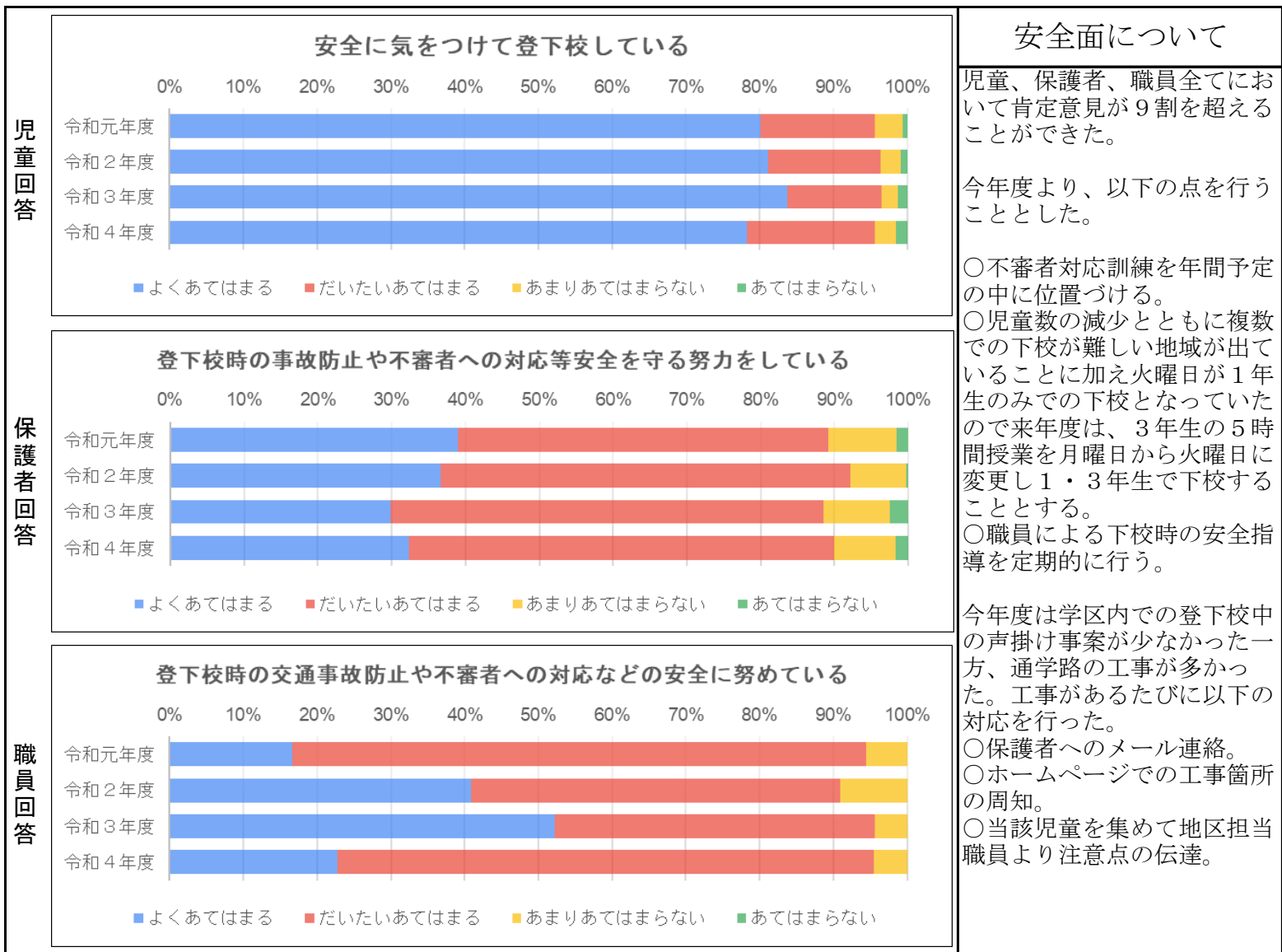
あいさつについて

一昨年度より、学校の重点指導の1つとして気持ちの良いあいさつに取り組んできました。

児童について、9割以上の児童があいさつができていると回答している。また、あてはまらない（あいさつができない）と回答する児童が年々減少する傾向にある。

保護者からの回答でも肯定的意見が9割以上となっている。その中でも「よくあてはまる」児童の割合が年々増加している。

職員からの回答では、肯定意見が年々増加しているものの、よくあてはまる児童は大きく減少した。児童と職員の結果に隔たりがあるのでよいあいさつの見本を示すことが重要と考える。



安全面について

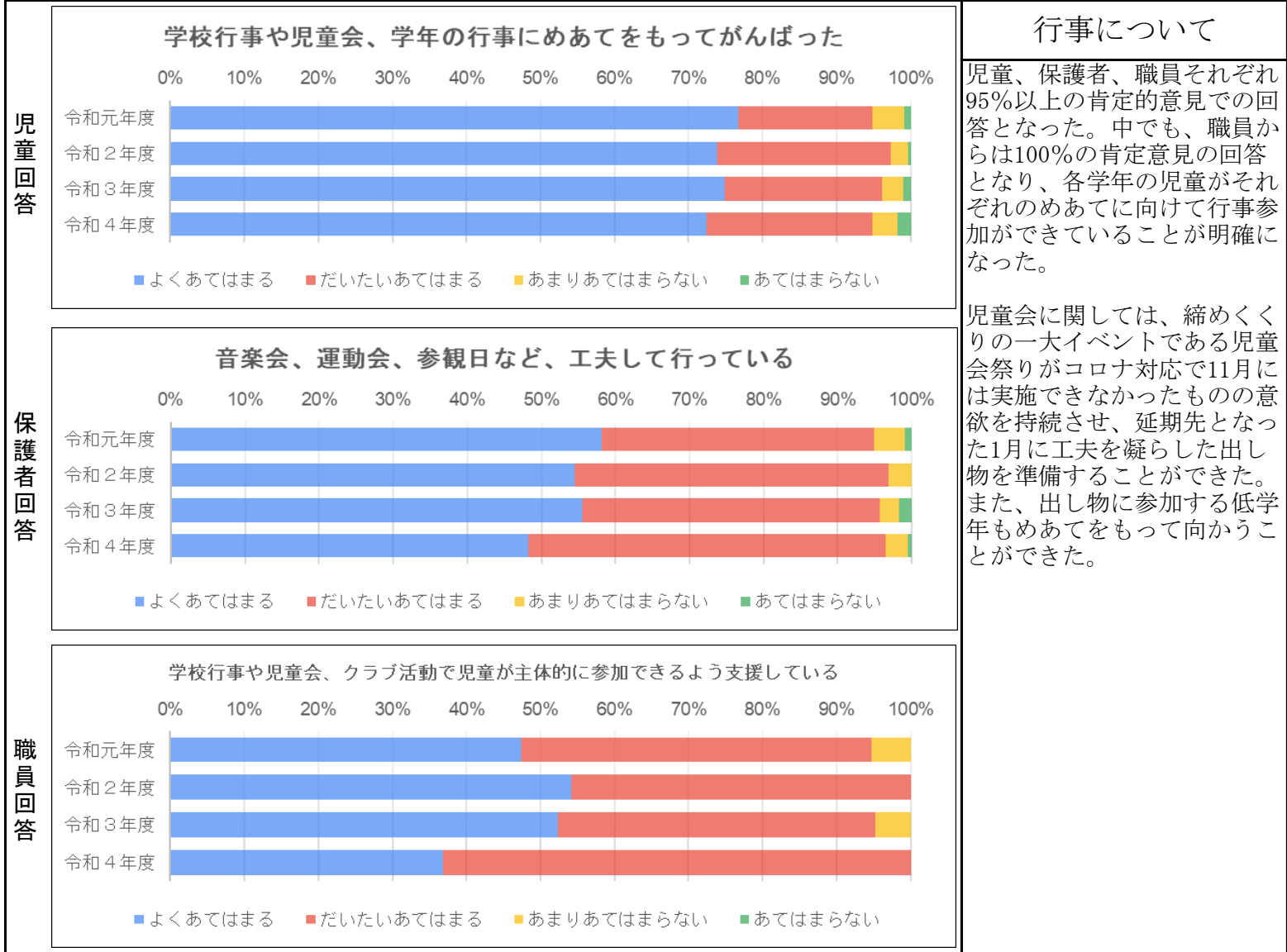
児童、保護者、職員全てにおいて肯定意見が9割を超えることができた。

今年度より、以下の点を行うこととした。

- 不審者対応訓練を年間予定の中に位置づける。
- 児童数の減少とともに複数での下校が難しい地域が出ていることに加え火曜日が1年生のみでの下校となっていたので来年度は、3年生の5時間授業を月曜日から火曜日に変更し1・3年生で下校することとする。
- 職員による下校時の安全指導を定期的に行う。

今年度は学区内での登下校中の声掛け事案が少なかった一方、通学路の工事が多かった。工事があるたびに以下の対応を行った。

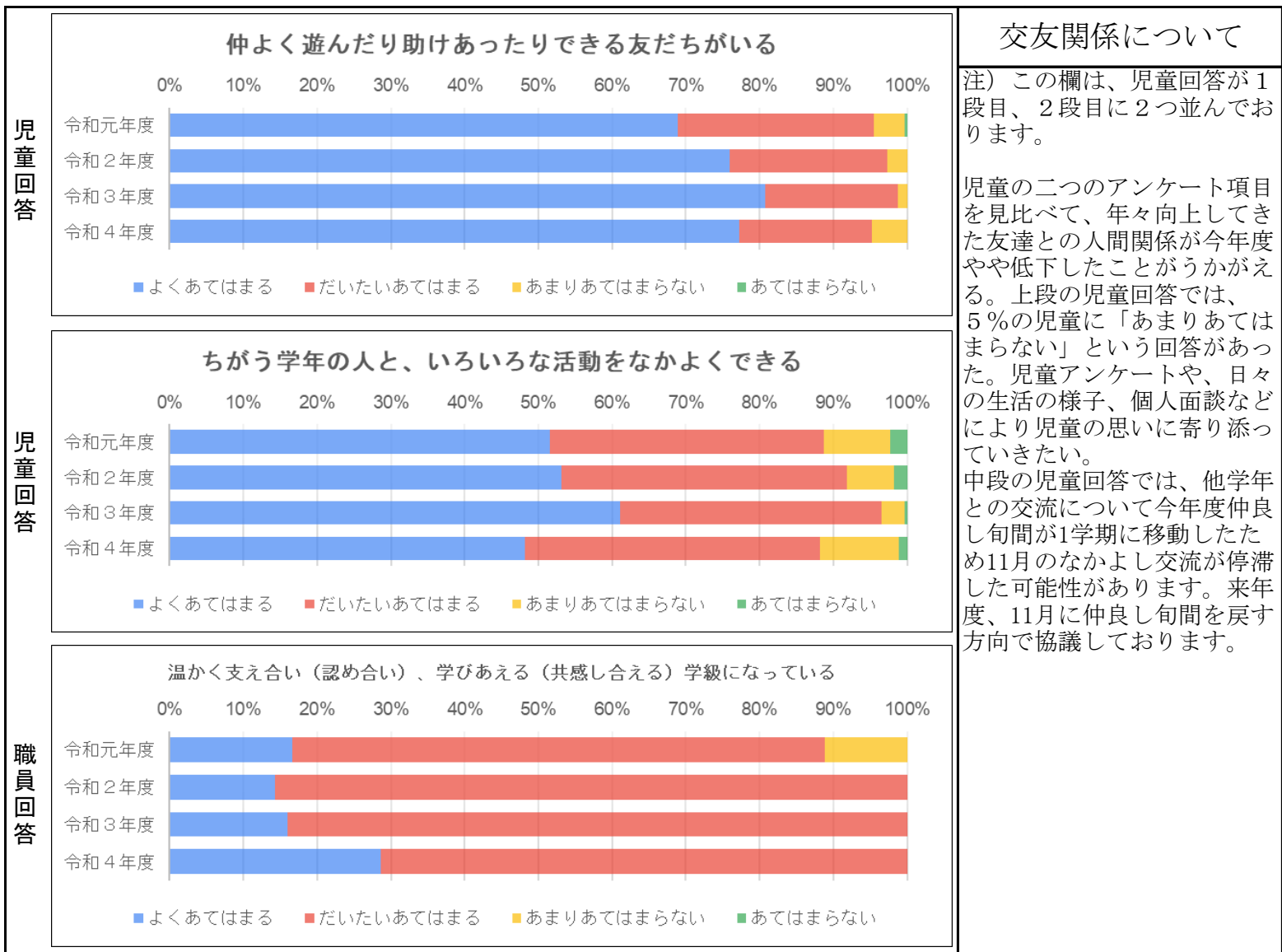
- 保護者へのメール連絡。
- ホームページでの工事箇所への周知。
- 当該児童を集めて地区担当職員より注意点の伝達。



行事について

児童、保護者、職員それぞれ95%以上の肯定的意見での回答となった。中でも、職員からは100%の肯定意見の回答となり、各学年の児童がそれぞれのめあてに向けて行事参加ができていることが明確になった。

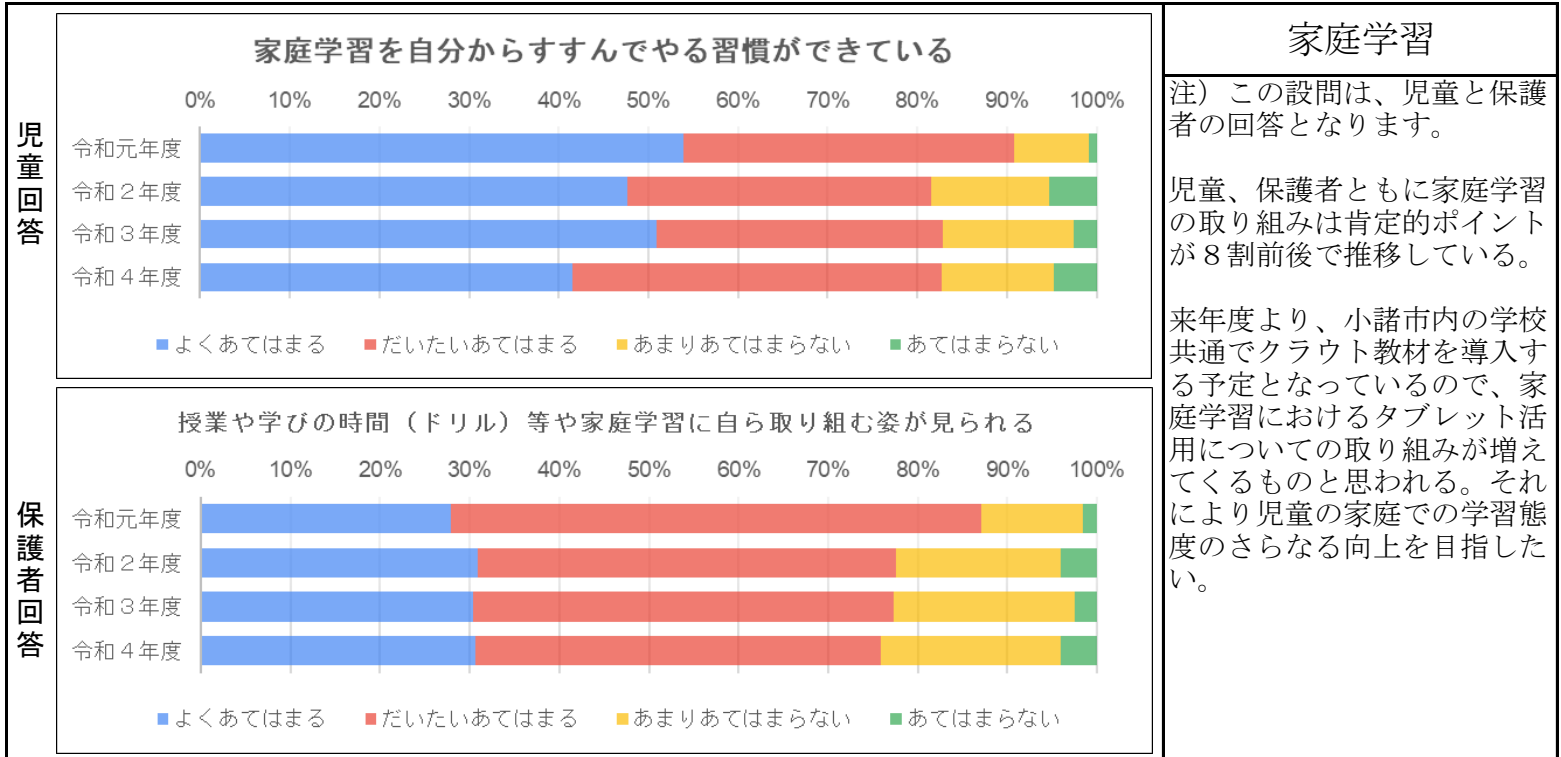
児童会に関しては、締めくくりに一大イベントである児童会祭りがコロナ対応で11月には実施できなかったものの意欲を持続させ、延期先となった1月に工夫を凝らした出し物を準備することができた。また、出し物に参加する低学年もめあてをもって向かうことができた。



交友関係について

注) この欄は、児童回答が1段目、2段目に2つ並んでおります。

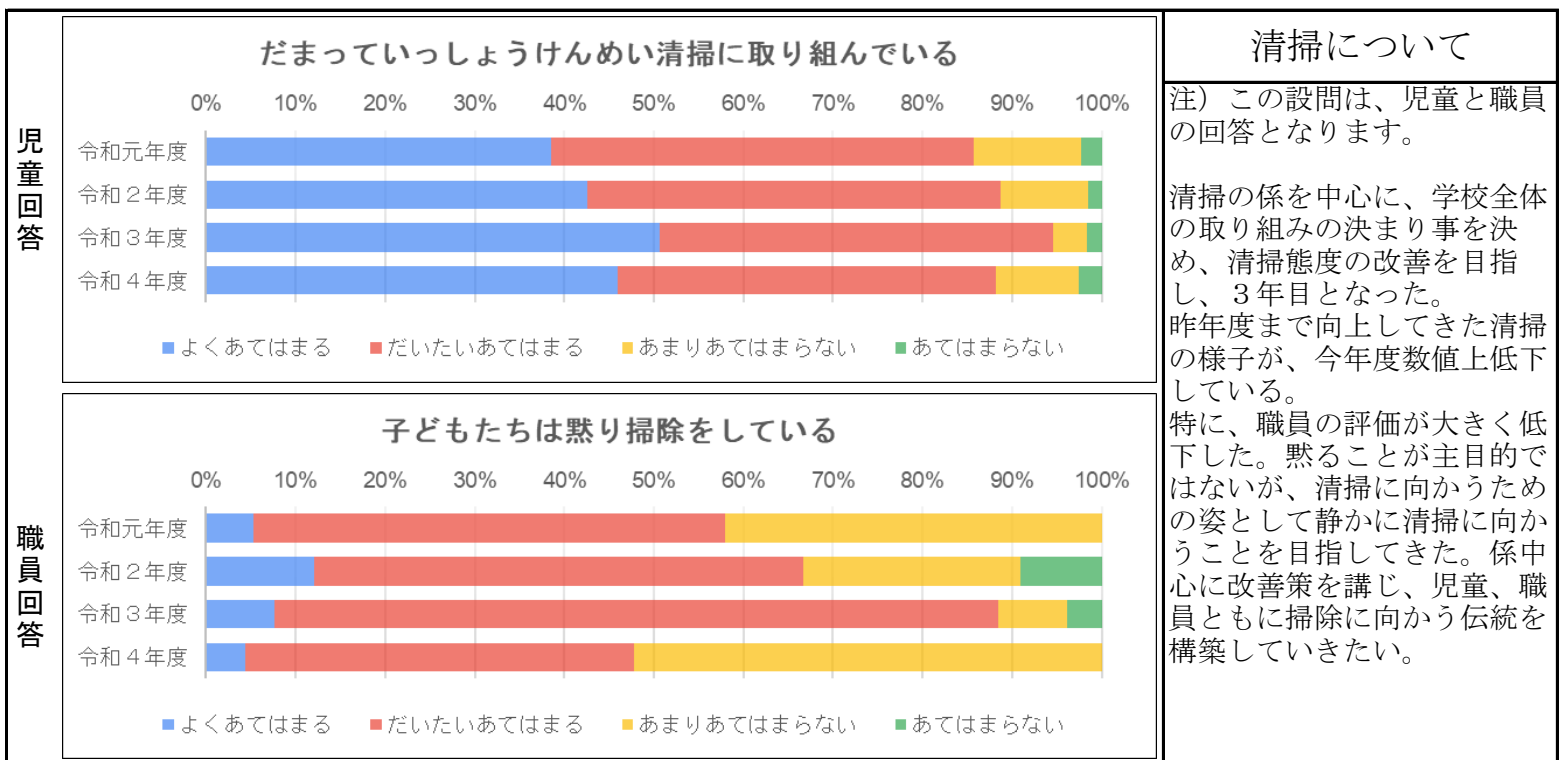
児童の二つのアンケート項目を見比べて、年々向上してきた友達との人間関係が今年度やや低下したことがうかがえる。上段の児童回答では、5%の児童に「あまりあてはまらない」という回答があった。児童アンケートや、日々の生活の様子、個人面談などにより児童の思いに寄り添っていきたい。中段の児童回答では、他学年との交流について今年度仲良し旬間が1学期に移動したため11月のなかよし交流が停滞した可能性があります。来年度、11月に仲良し旬間を戻す方向で協議しております。



注) この設問は、児童と保護者の回答となります。

児童、保護者ともに家庭学習の取り組みは肯定的ポイントが8割前後で推移している。

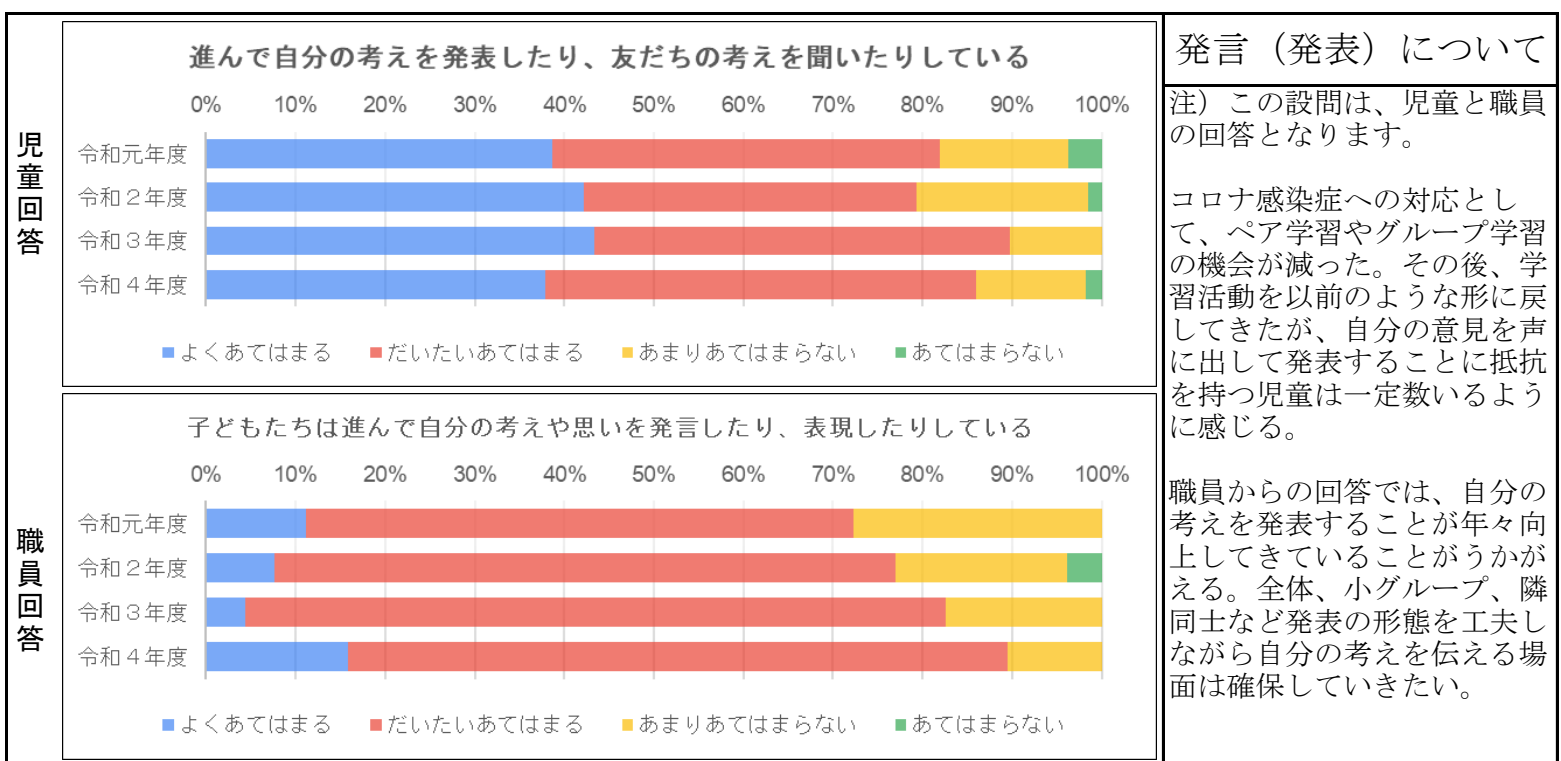
来年度より、小諸市内の学校共通でクラウド教材を導入する予定となっているので、家庭学習におけるタブレット活用についての取り組みが増えてくるものと思われる。それにより児童の家庭での学習態度のさらなる向上を目指したい。



注) この設問は、児童と職員の回答となります。

清掃の係を中心に、学校全体の取り組みの決まり事決め、清掃態度の改善を目指し、3年目となった。昨年度まで向上してきた清掃の様子が、今年度数値上低下している。

特に、職員の評価が大きく低下した。黙ることが主目的ではないが、清掃に向かうための姿として静かに清掃に向かうことを目指してきた。係中心に改善策を講じ、児童、職員ともに掃除に向かう伝統を構築していきたい。

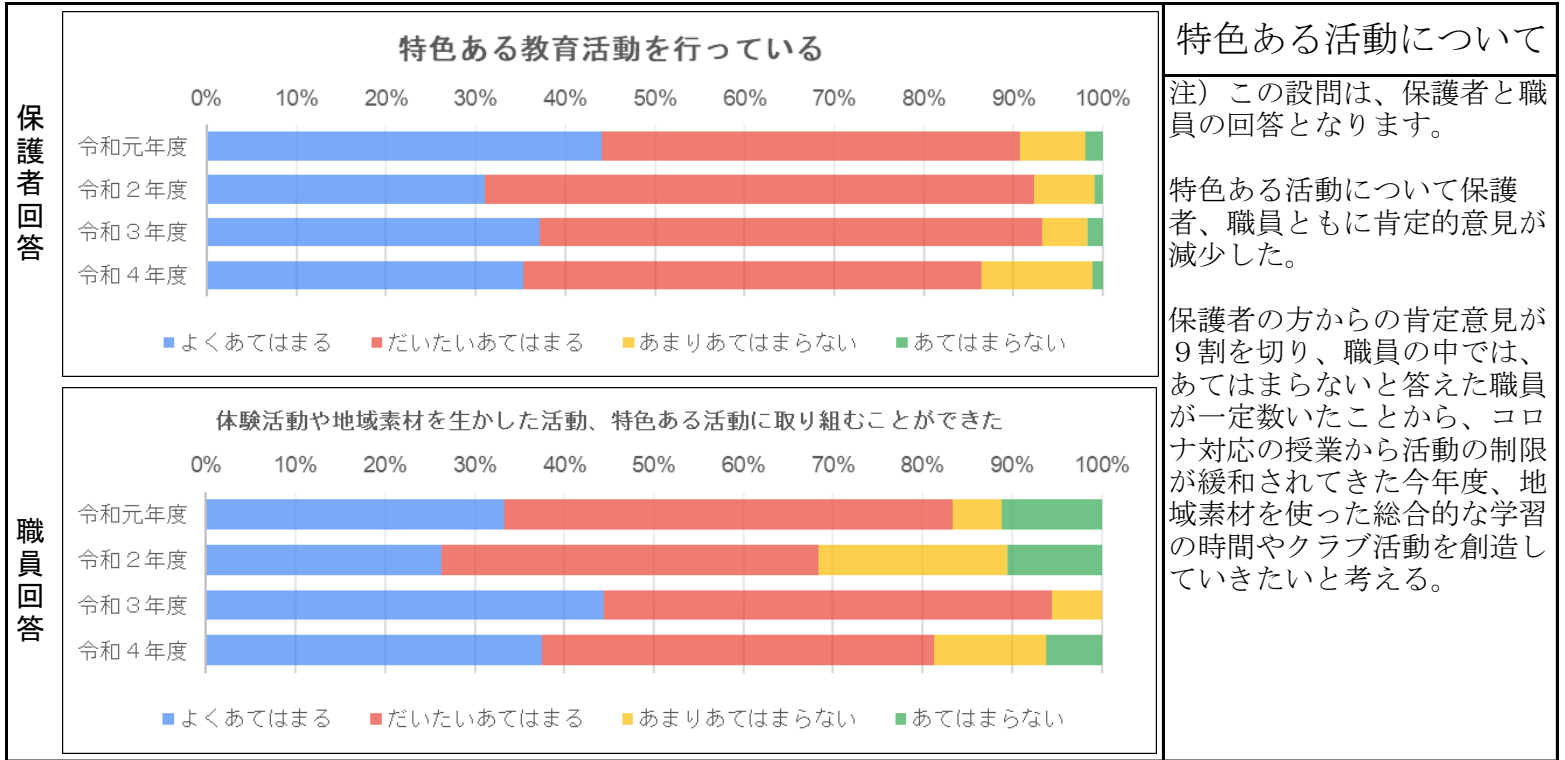


注) この設問は、児童と職員の回答となります。

コロナ感染症への対応として、ペア学習やグループ学習の機会が減った。その後、学習活動を以前のような形に戻してきたが、自分の意見を声に出して発表することに抵抗を持つ児童は一定数いるように感じる。

職員からの回答では、自分の考えを発表することが年々向上してきていることがうかがえる。全体、小グループ、隣同士など発表の形態を工夫しながら自分の考えを伝える場面は確保していきたい。



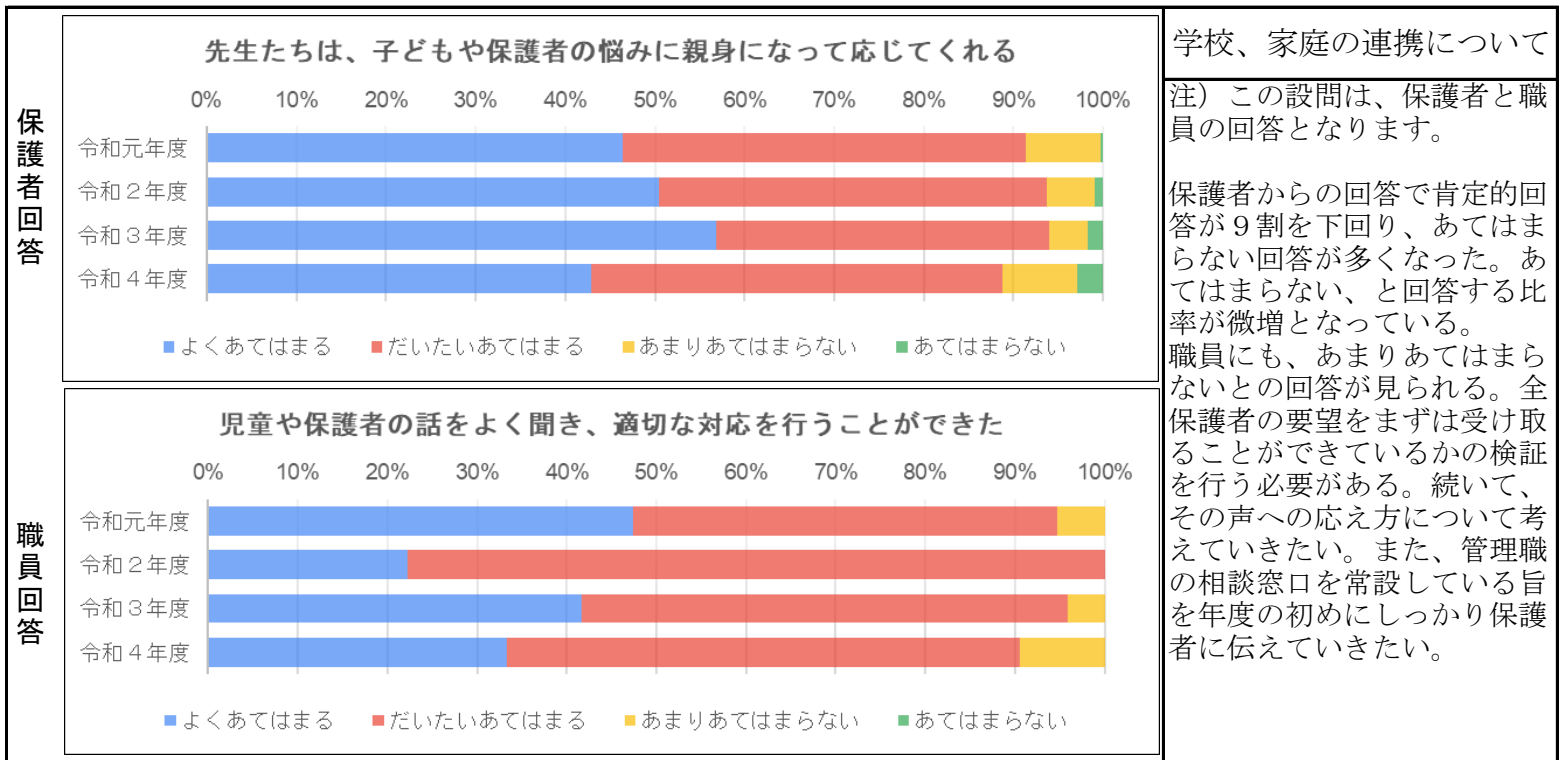


特色ある活動について

注) この設問は、保護者と職員の回答となります。

特色ある活動について保護者、職員ともに肯定的意見が減少した。

保護者の方からの肯定意見が9割を切り、職員の中では、あてはまらないと答えた職員が一定数いたことから、コロナ対応の授業から活動の制限が緩和されてきた今年度、地域素材を使った総合的な学習の時間やクラブ活動を創造していきたいと考える。

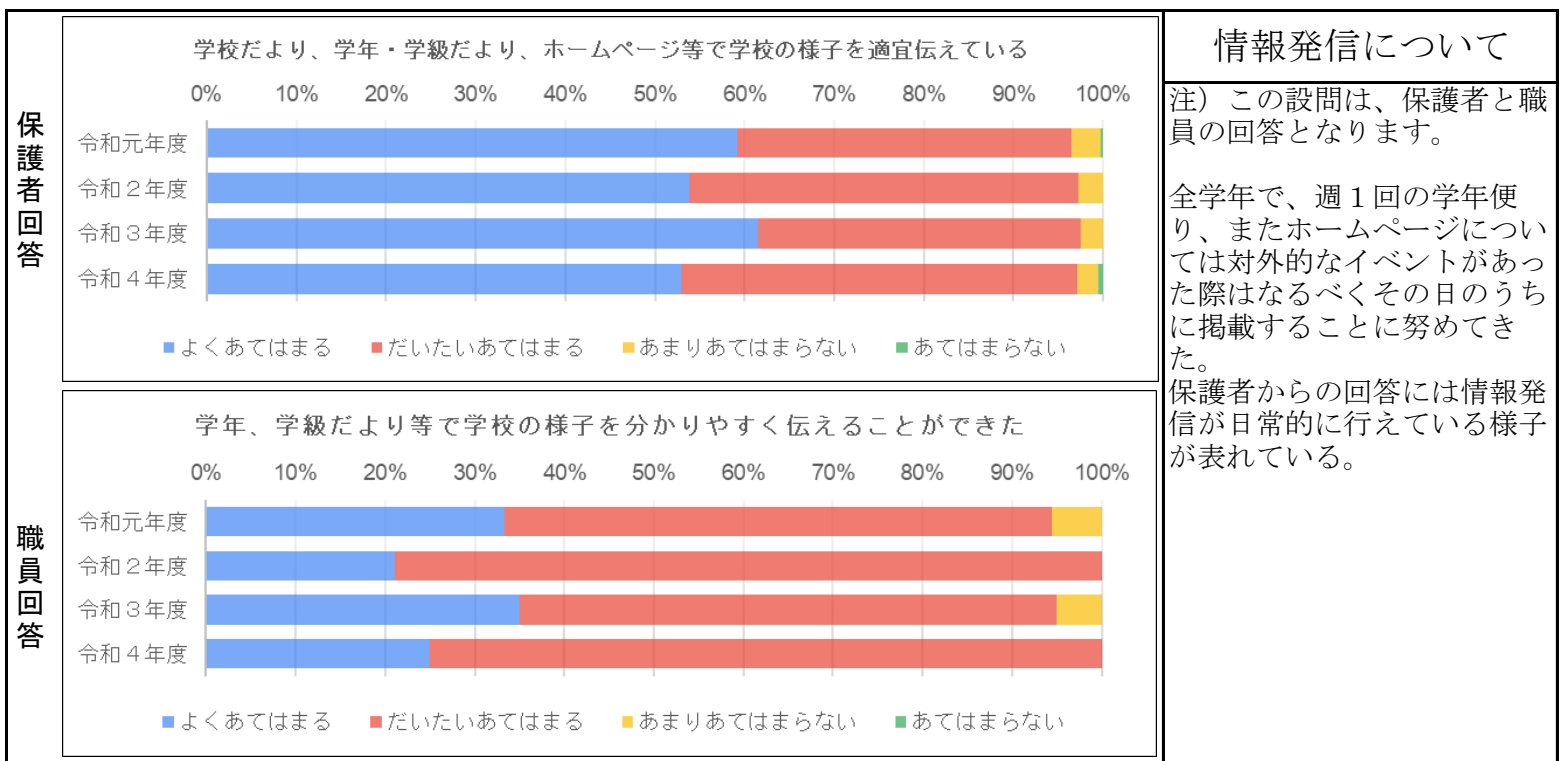


学校、家庭の連携について

注) この設問は、保護者と職員の回答となります。

保護者からの回答で肯定的回答が9割を下回り、あてはまらない回答が多くなった。あてはまらない、と回答する比率が微増となっている。

職員にも、あまりあてはまらないとの回答が見られる。全保護者の要望をまずは受け取ることができているかの検証を行う必要がある。続いて、その声への応え方について考えていきたい。また、管理職の相談窓口を常設している旨を年度の初めにしっかり保護者に伝えていきたい。



情報発信について

注) この設問は、保護者と職員の回答となります。

全学年で、週1回の学年便り、またホームページについては対外的なイベントがあった際はなるべくその日のうちに掲載することに努めてきた。

保護者からの回答には情報発信が日常的に行えている様子が表れている。